

令和2年2月20日

島本町立第二小学校
校長 辻本 堅二 様

島本町立第二小学校学校協議会
会 長 坂 東 俊 枝

令和2年度の学校教育活動への提言

令和元年度の5回の学校協議会を踏まえ、下記のとおり取りまとめましたのでお取り計らいを願います。

記

私たちは、第二小学校学校協議会委員として子どもたちの「学びと育ち」に関わり、学校の教育活動について提言できることに大きな意義を感じています。

子どもたちの健やかな成長のためには、学習環境が大変重要であり、施設面はもちろん、周りの大人たちの働きかけが不可欠です。そのためにも、学校の施設面及び人的な環境整備を行いつつ、教職員と保護者、そして学校に関わる地域の方の協働が必要です。

子どもたちに「知」「徳」「体」とバランスの取れた力、すなわち『生きる力』を育むことは学校教育の目標でもあります。子どもたちが意欲を持って学び、豊かな心を育み、心身ともに健やかな体に育つよう全教職員が力を合わせ、意図的・計画的かつ組織的に教育課程を実施し、質の高い教育活動を創造されることが望まれます。そして、学校を拠点としながら、保護者、地域の信頼と協働の上に立ち、実践されることで、子どもたちに『確かな学力・豊かな心・健やかな体』を育むことができると考えます。

参観や運動会などで先生方のさまざまな工夫、改善へ向けた取り組みが垣間見えて、日々、子どもたちのために全力を尽くされていることを実感します。教師の多忙がマスコミ等でもしばしば報道されるようになりましたが、働き方に配慮しつつ引き続きよろしく申し上げます。

①授業づくり、確かな学力の向上

新学習指導要領「生きる力」については、何年も前から生きる力をつけることを目標にして指導がなされているようですが、本当の意味での生きる力とは何であるかを、先生方がきちんと理解し共通認識して進めていただきたいです。例えば、自分で考え、自分の言葉で自分の意見をしっかり表現できる力は、自己分析や自己肯定能力に繋がるだろうし、実際に自分で自分の課題を見つけられる力は、とても大切だと思います。そ

のためには、論理的思考力を育む授業を、どんどん進めていってほしいと願います。

それに関連すると思われませんが、教室での掲示も、「目できく 耳できく 心できく」など担任の先生の工夫や心意気があちこちにみられたことは大変好ましく思えました。先生方には、今後も「みんな違っていい、はみ出してもいい、自分で問題解決できる人になる」など、子どもの心に響く投げかけを続けていただきたいと思います。

第二小学校では、文科省の新学習指導要領を1年前倒して実施されている面での成果が出ているようで、次年度も余裕をもって対応できるであろうと思えます。プログラミング教育やタブレットの導入も、先がけて実施することで、既に1年を経て課題なども見えていることだろうと思いますので、その課題をクリアしつつ、さらに深めていただきたいです

参観等で見える学校の様子は、とても落ち着いて見えます。そして、どのクラスも落ち着いて前向きに授業に取り組んでいる様子が伺えました。ただ、児童養護施設「はるか」、児童心理治療施設「ひびき」への途中入所児童が増えています。そんな状況にもかかわらず、落ち着いた授業ができている様子は、先生方の努力の賜物でしょう。しかしながら、先生方には相応の負担を強いていることにならうかと思しますので、学年途中でも教員加配などができれば好ましいと思います。

家庭学習フォローアッププログラムの利用が進めば、家庭学習時間の増加や学力アップにも結びつくのではと考えます。多くの家庭で利用しやすいように、例えば、機器を持ってない人には、機器のレンタルを町に要請するなどの工夫をお願いしたいと思います。また、外国語教育に関しても、いち早く工夫がなされていると考えます。中でも、遠足や修学旅行で、外国人旅行者との交流がされている点は、デスク学習や授業での学習以上に学ぶ点も多く、子どもの自信に繋がると思しますので、今後も国際交流を含めた体験的な外国語学習を継続していただきたいです。

学力だけではなく、精神力も含めて、問題点を分析し、解決するための方法を考え、結論を導き出すことを意識した授業を、理科だけでなく、様々な教科で生かして、論理的思考のできる子どもを育ててほしいと思います。

②生活指導、学校安全、心の教育の充実

本年度も昨年度に引き続き、器物破損もなく、校舎内外の美化が保たれていて学校全体の落ち着きを感じます。生活指導や児童会活動が組織的に効果的に運営されていることが伺えます。

学校教育自己診断で、いじめについての質問回答を見て、先生や保護者から子どもたちは「いじめはいけない！」と言う事をしっかり指導されていると感じました。にもかかわらず、いじめがゼロにならない事は残念です。二小は、遙、ひびき児童もいます。子どもに限らず、先生も保護者も、不自由とか困難から生まれる事を考えられる人の繋

がりがあります。解決する沢山の経験と行動力をつけていけるよう導いていってほしいと思います。

今年も、災害時の引渡し訓練が実施され、災害への対応については、着実に成果が上がっているように思われますが、毎年、卒業して入学するという繰り返しの中で、常態化したメンバーではないので、何度訓練しても完璧であるということはないと思われます。今後も、災害対策は継続的にお願いします。避難訓練等も、マンネリにならないような工夫が好ましいと思われます。

また、新たな住宅やマンションが建つと交通のパターンが変わります。例えば東大寺のセブンイレブンのところは自動車の交通量が増えているように感じます。こういうちょっとした変化は公式的な交通調査よりも安全ボランティアの方や近くの保護者が敏感に感じる事なので、学校、警察、PTA等と都度情報共有をしていくことが必要だと思います。

携帯電話の問題は、時間をかけて実施されているので問題はないと思われます。経過を観察していただきたいです。今後、想像もつかないことが起こったりする懸念もありますので、注意を怠らないようにお願いします。もし、トラブルが多いようであればいったん中断という決断があってもいいのかなと思います。

ところで、男女共同参画、性的マイノリティへの配慮などの教育について、第5次総合基本計画でもこれらの施策の推進がめざされています。どれくらいの学年にどのように伝えるのかについては検討する必要がありますが、高学年であれば、ある程度話がわかるのではないかなと思います。多くの外国人労働者に来てもらうという政策も国家的に推進されており、実際島本町でも外国人が増えています。ジェンダーや多様性の問題などは道徳の授業だけではなく、英語、国語、社会などの教科で、横断的に出てくるトピックであり、複合的に取り入れていただければと思います。

③学校組織の向上と教育環境の整備

少人数クラスの実現に向けて、どの学年も3クラスにしたいと要望され、実際に改善が認められている点は、喜ばしく思います。クラスの人数次第で落ち着きも変わってくるのは確かなところだと思います。3クラスを定着できればと思います。参観で拝見していても、後ろに保護者が立てるスペースができました。今後も、少人数クラスの実現は、現状から後退することなく継続的に実施していただきたいと思います。クラスの人数が少ないことは、落ち着いた安心できる学級づくりに確実に有効であると思います。

前年度は自然災害での破損などで修繕箇所が出ましたが、日頃から先延ばしにならない修理・修繕の素早い対応を望みます。学校教育自己診断などからは、一部校舎(西館)の暗さを指摘された意見が散見されます。また、体育館が老朽化していると思いますので、災害時に危険がないように適切なメンテナンスを施すなどの学校施設の改善は、

第一に考えて実行に移していただきたいと望みます。

もう一定の解決をしているのかもしれませんが、昨年千葉県で台風による鉄塔の倒壊と停電が大きなニュースになりました。二小も運動場の真上に電線があり、隣に鉄塔も立っています。関西電力からの情報収集や保護者への説明を尽くし、場合によって関電や行政に要望を出すなどして不安のない状況をつくってほしいと思います。

④地域、保護者との連携

安全ボランティアさんについても、高齢化による人数減少が続いているようです。保護者が安全ボランティアさんの配置を当然だと思うことには疑問がありますが、保護者もしくは地域力で、子どもの登下校の安全を担保してほしいと思います。

大阪青陵高校4月開校による懸念事項は解決されていることと思いますが、適宜、見回りを実施し、問題があるようならば、速やかに相互の話合いをして解決していただきたいと思います。

読書の取り組みで、保護者と地域の方で続いているサークル、おはなしたまごさんの活動は続けてほしいと思います。趣向を凝らされたこれまでの読み聞かせの経験に、大人も引き込まれていきました。

⑤その他

学校教育自己診断については、当初は、あらゆることを数値化することに異議が唱えられていましたが、先生方が、結果をいい形で分析し改善に繋げていらっしゃる点は評価に値すると思われまます。また、その内容についても、関係教員は、きちんと実情を理解し問題の解決に向けて行動されているようで安心しました。

社会的には、働き方改革による労働時間管理等での改善点が見られますが、教員の労働環境の改善は、一步遅れているような気がします。報告書が多いこともひとつの要因であると伺いましたが、タイムカード導入と同時に、在宅勤務を認める方向で、管理システムを導入するようにならなければならない時代になっていると思います。全町的な課題として、関係機関とご相談の上、改善できることを望みます。そのために、限定的に可能な手伝いができるようであるならば、地域の力を借りることも検討願いたい。

また、本年度は人員配置の面で一部の先生方に過度の負担がかかったように思います。教育委員会には人事面等で適切な手当てが（必要なら）考慮をしていただくことを望みます。

本提言に対しての学校としての具体的な方策、教育委員会からの回答などについて、年度初めに説明をいただければありがたいです。